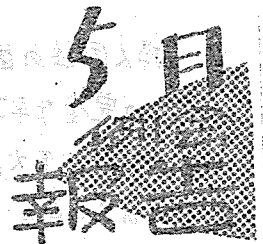


1986. 5. 31 発行

あこら丸線連絡先		通信担当
No 89		伊藤 初江
細谷 洋子		TEL 883-1062
TEL 823-0738		
今日のむかみ		
例会報告	1. 2	集会参加記
均等に旅行をめぐる 新聞読者の働き		"女性が喜ぶしを アサインする"
PART II	3	アール夏山今夏
ホニネ論争	4. 5	情報



○女性史をやったからたこともあって、もうさわようこの「女の戦後史」を履き読んでみたが、まとめるには難しい内容だった。あまりにも範囲が広すぎて詰められず、レジュメの中身が、戦前の歴史で終ってしまった。

『女の戦後史』読書会

- ☆ 女の状況— 結婚のかたちにあざやかに表われている。
 - ・ 通い婚～女と男の経済は別なため、妻の自立も確保される。
 - ・ 婿取り婚～まだ女の地位は高かった
 - ・ 嫁入り婚～女の地位は、みるもむざんに没落。
 - ・ 寄り合い婚になって、女たちの復権がいささかみられるようになった。(戦後)

<女の戦後史>

☆ 戦争の共犯者
「兵隊さんは命かけ、私たちはたすきかけ」を合言葉に、小旗を振り、歓呼の声をあげ、男たちを戦場に送った女たちのあざや

かな共犯性。日本の女たちは、被害者であると同時に、加害者としての責任を問われることからまた、のがれることのできない立場にいる。

☆ 性の犠牲

職を求めなくとも生活できる層の女のかわりに、職を求めなければ生活できない女たちが「日本婦人の貞操の防波堤」として犠牲にされた。
参加者にも戦後の体験者があり、実態が慰安婦だとは知らず、「ダンスがでける者」という広告を見て踊れる人がうらやまかったと語っていた。その様にして人集めをしていたようだ。

☆ 売春婦たち

1947年8月、東京都内で検挙された売婦
83970についての警視庁調査。

年齢 14才~40才以上
(18才~26才 90%, 262人)

動機 (戦後の特色が著しい)

享樂を求めて(365人), 生活苦(310人),

好奇心(284人), 誘惑されて(140人),

暴行されて自暴自棄(75人)

☆ 婦人団体の誕生

「男女の完全な平等と婦人解放」は、占領政
策の日本民主化五大路線の一つ。

敗戦の年11月に、新日本婦人同盟(現日本
婦人権者同盟)が、市川房枝ら戦前の婦
選運動者を中心に組織されている。敗戦の
翌年3月、GHQの少なからぬバックアップをうけ
て婦人民生クラブが発足したが、占領政策が
日本非軍事化から、アメリカのための反共の防壁

化へと変わってゆくにつれ、鬼子的に成長し、
GHQからけなされている。

☆ 政界の新参者

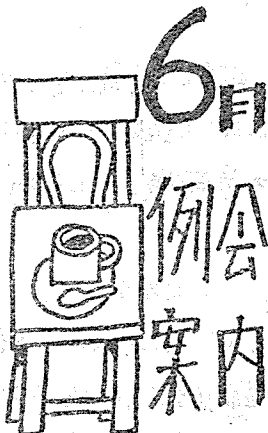
日本の女がはじめて被選挙権・選挙権を
行使したのは、1946年4月10日におこなわ
れた戦後最初の総選挙の時である。

☆ 子を生む自由

生みたくないのに受胎した女たちが生まざる
を得なかったのは、人工中絶が法的に許されず、
いやおうなしに生まなければならなかったから
である。もらい子殺しの「寿産院事件」は、生ま
ない権利を奪われている女たちの追いつめら
れた状況がその背景にある。優生保護法が
成立したのは、その年の7月である。

その他、PTA、女子学生七団論について話し合
いました。(大野明美・記)

「これからのあごら礼幌について」



主要なメンバーだったHさんとIさんが6月(つばい)
でやめることになりました。二人があごら礼幌で果た
していた役割は大きく、具体的な仕事分担を含めて、活動
スタイル・運営のあり方等、これからのあごら礼幌をどうして
いくのかじっくり話し合いたいと思います。是非、多数の
方御出席下さり。

- ・ 6月13日(金) PM 6:30~9:00
- ・ 喫茶ミドリ2階(南4西1、TEL 231-7627)

男の労働こそ 問いたい!

「今のところ誰も深夜勤をした人はいない」といっても、将来「ある」という女性も出てくるでしょう。その道まで開かそうと言うんですか——頑固で保守的男性たちだ。言ゆんはかりの顔をして、労組の副委員長は言った。そこは私が働く新聞社の会議室。五月初めの昼下がり。

六月下旬の三六協定改正に合わせ、会社は「均等法、改定労基法施行に伴い、労協全体を見直した」と言ってきた。女性の意見を聞きながらこの問題の対策をたてる方針を決めた労組は、13人の中核メンバーの会議に4人の補佐と女性委員を加えた。

「昨年通り、つまり旧労基法の基準通り」の時短外、休日労働制限をそのまま更新してほしい。記者の深夜勤もじまの方向にしてほしい。母性保護の拡大はせぬ。その他の賃金や処遇の差別是正は、一朝一夕にはいかなんと言おうが、平等に向けてじっくり取り組んで——4人が口をそろえて言った。「深夜勤や、時間外制限の緩和をしても会社が女性を一気にたくさん採用するとは思えない。将来「深夜勤したい」という女性が出てくることは考えられる

均等法施行をめぐる新聞労働者の動き PART II

が今のところいなり。数年様子をみて、男の労働条件の向上をはかりながら考えても遅くはない。それには時間がかかる。今すぐこのワリを取り払えば、残念目から家事、育事が女の肩に重くかかっている現在、締めざるを得

ない女性たちが続出するだろう。女性社員が数減する中、子供を産み育てるまで働き続けてきた仲間たちこそ、文句に文句にしたの」と言った。

均等法元年なのだから何か形のあることをしたいとカむ男たちにとって私たちの発言は保守的に聞こえ、拍子抜けしたようだった。

この会議の前に、同じ趣旨のセブ人部見解を出していた。それとは別に「私たちは深夜勤はしない」という婦人記者声明も出した。その中で私たちは男たちの働き方の現状について言及した。昼と夜とが逆転したためちかちか働き方をしする男Eのつれあいはほとんど専業主婦だ。逆にいえば専業主婦が家を守るという図式の中でしか、まっとう労働はできないという図式の中でしかまっとう労働はできないということだ。ふつうの生活をしたい男たちが作る新聞はふつうの生活実感とはおおよそかけ離れてものになるだろう。そのことを突いた声明には大いに反響があった。

「生活感が全くないという言ひ方はひどい」「どうして男を対立させて考えるんだ」「男も巻きこんでやっていこうとする男も」と別な筆略をとった方が得策、etc。私の所属する部の部長は「これは挑戦

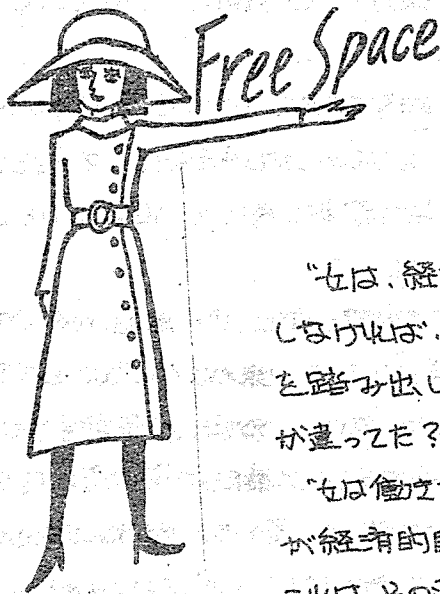
状ですぬ」と言った。

会議の中でも、私たちは男たちの働き方こそ「これなののか」と問い「夜言ふ朝かけの取材体制、男中心の新聞の作り方がよいと思わぬ。この根っこについて話し合いましよう」と働きかけた。

委員長や中執メンバーたちは渋い顔をした。この会議はこれから何回か開かれる。「男たちにわかるようにしっかりと粘り強く話していくしかない」、女性委員長4人はそう考えている。

(新聞労働者 U)

#####



ホネ論争

“女は、経済力を夫に依存してはダメだ。経済的自立をしなければ”。そう思い続けて数年。やっと何とか仕事に片足を踏み出した。その日、前回の広瀬さんの文。「アッ、何が違ってた?」という感じ。

“女は働きたくとも、その権利が保障されていないのだから、主婦が経済的自立をしていないということまで否定することはできない”。これは、その通りと思う。しかし、時間をかけて条件を整え、準備をしていけばかなり可能に思える。

次に、働き方の質の問題。ここのところがよくわからない。“男女の平等”を拒否し、女への差別をはねのける「質の働き方をどう作っていくのか」とあった。具体には、経済的自立をしていったり、様々な運動にかかわっていくということもたぶらか。自分が働き方を問うているその間でも、夫は、失死になって働いているわけなのだが、その夫の働き方の質に対してはどう考えるのか。私は、女が、男の経済的負担を現実的に減らしていくことが、男の奮力を抜くことにつながると思う。“働き方=生き方の質”というところをもっと詳しく説明していただきたい。

一口に「仕事をしたい」と言っても、それに対する思い入れというのは、様々なのだらあというのがこの間の議論でわかったこと。まず職場に入っていくのかという運動のための仕事、理屈も何もなし、誰も自分のために線いづく必要はない、自分でやるしかない、食うための仕事、等々。“仕事の質、働き

方の質”を考えると、単純に、“自分の能力を活かすため”とか、“自分の食いつちは自分で稼ぐ”にはならないところに、難しさを感ずる。

55歳に、私は、自身に経済力をつけた。 (夫も、私の老後までは保証してくれぬ) 娘たちに、口だけでなく、経済的自立の必要とその現実を身教えさせた。という理由で、経済的自立と言えぬものを手にしたいと思っている。

(松平 明美 記)

働く女が本当に自立している女母でしょうか。私の同年代(20代中頃)の女達の中には、お嬢様に生まれ育つことを身の不運と思ひ、夫を取場に結婚相手を見つけるために働く女と母たものが大勢います。(むしろ、取場を結婚相説戸と思ひない人が少数なのかもしれません)

また、一生涯仕事をもち続けていたのが、夫好き母人と一緒に暮らしたのがために、やむを得ず主婦になる人。子供が生まれ、しかたが目にしに主婦となる人。パートでもいけると働きに出る、からだをこやし主婦をしている人。年老いた親の面倒を見るために主婦をしている人。

ただ、単に食えるためにのみ働く人、取場の内でフラスレーションをかかえながら働く人。主婦に母れ母りかると働く人。仕事が好きだから働く人。

働くことのみが、社会参加では母いと考えている人。

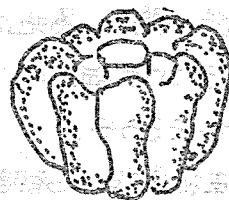
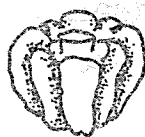
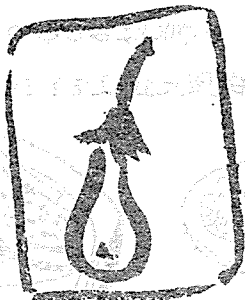
何れの女達の置かれた立場の上に、百人百様の生き方があるのでは母いでしょうか。

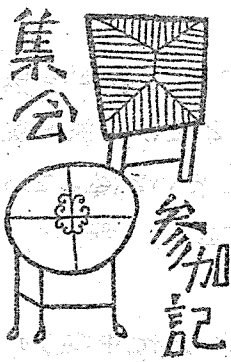
夫と子供の面倒を見母かると働く女の生き方と、夫と子供と共に生き母かると社会に参加する生き方と、どちらが良いとか悪いとか言うことは決してでき母いのでは母いでしょうか。

何億という道が目の前にあり母かると、そのうちの数本しか母かに生きる女には踏み出せぬ社会こそ問題にすべます。

女の敵は主婦を敵にしてしまうこの社会です。

(伊藤 初江 記)





“女性が暮らしをデザインする”

小沢澄子の「あなたが政治を忘れても、政治はあなたを忘れぬ」という言葉の通り、私達の日々の暮らしは、政治と無縁にはあり得ない。その生き方からめとろうとする優生保護法の改悪や、灯油の価格の背後に、はまりと政治の動機をを感じつつ、やはり政治は遠かった。

しかし、暮らしの感嘆を覚えた政治家屋達に、私達の暮らし易さを平和への希望を託すことは幻想でしかないのだから、暮らしの感嘆を確かに持った人を送り出すことを志向する他はない。政治が私達の暮らしの感嘆から離れられたところで動いているのなら、暮らしの感嘆の方へ引き寄せる他はない。

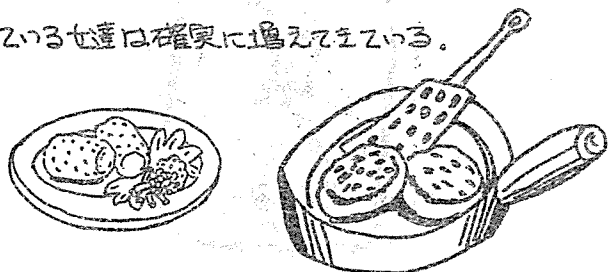
そう思った思ひは、少しづつながら確かに育ちてきているように思う。水面下で、つるつとたぎってまわっている山が、3年前の統一地方選の際に、各地で、政治に風穴をあけようという試みとして表われたのではなかったらうか。

生活クラブ生協運動から都議になった池田敏子さん、せつけん運動から金沢市

議になった横谷絢子さん、灯油の共同購入から広島市議になった山口幸子さん、原爆の凶悪害の反核運動から衆議になった竹村素子さん、この4人の女性議員達も、野党として斗争運動を同時に政治という機軸の中で風穴をあけようとしてきた人達だ。

その彼女達が、議員活動をしていて身体が震える程口惜しく感じるのは、考え方の上での圧倒的多数の差だということ。多数決は民主主義の基本原理の一つではあるが形骸化し、形式民主主義に墮した多数決は、数の暴力、力の論理でしかない。衆院知学技術委員会での原発期成法案強行採決の報告は、力の論理の恐ろしさあるため痛感させるものだった。

しかし、日々の暮らしの背後には、はまりと政治を意識し、政治は避けて通れないことを感じている女性達、暮らしの論理に政治を引き寄せるにはこの力の論理と対決していかなければならぬことを感じている女性達は確実に増えている。



中山千夏さんへ

声援を! 支援を!

— 議席から私が見たものは、異なる軍拡であり、あからさまな福祉の切り捨てであり、子供を国家の材としか見ない教育方針であり……。6年前と違って、今回、私は絶対に勝とう、と思っています。— (私の決意より)

中山千夏さんが、参院選に東京地方区から無所属で立候補します。

— 私たちより後から生まれ、生きてゆかなければならぬもののために、地球を少しでもよくなる住み良い所にしておいて、飛ぶたまたい — (地球通信より)
という、千夏さんに、是非、是非、支援を!!

カンパ送り先：第一勧銀・大久保支店 063-1493963

郵便振替 東京 2-103891

Tシャツ一枚 1,500円 (地球通信 17号付)

* Tシャツは、582-4747、廣瀬まで連絡下さい。
若干あります。

この日、話題の中心はケルシ(カ)イ原、
参事だった。世運の手によって、政治を
語る催しが企画され、原発問題が論議
に語られる時代になったのだ。

この時期にこうした催しがもたらさるこ
とに登壇への意図を感じようと感じ
まふと、語られている中身は真実であり、
現象そのものだ。Bestしかる許すな
い或る種の潔癖を、狭くを超えて、
一つ一つのBetterを置かずBestに
近づいていこうというしたたかさを感じ
たことだった。(細谷洋子・記)



情報

★第2回教文演劇フェスティバル
 石川啄木生誕100年記念
 北海道公立文化施設協議会総動員劇場

こまつ座「泣き虫なまのき石川啄木」

日時 7月17日(木) 18日(金)
 開場 18:00 開演 18:30

場所 札幌市教文文化会館大ホール

料金 全席指定

前売 3000円(当日3500円)
 市内有名フレイグアイドにて

「じりつや」

地域での自立をめぐる
 障害者の作業所

〈営業品目〉

◎ミルワスクリーナー印刷

- ・ポスター(Ｂ4全版まで)、チラシなどの印刷
- ・Ｔシャツ、トレーナー、自立作業などへのプリント

◎軽印刷

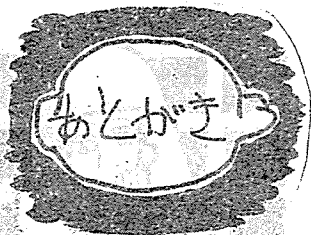
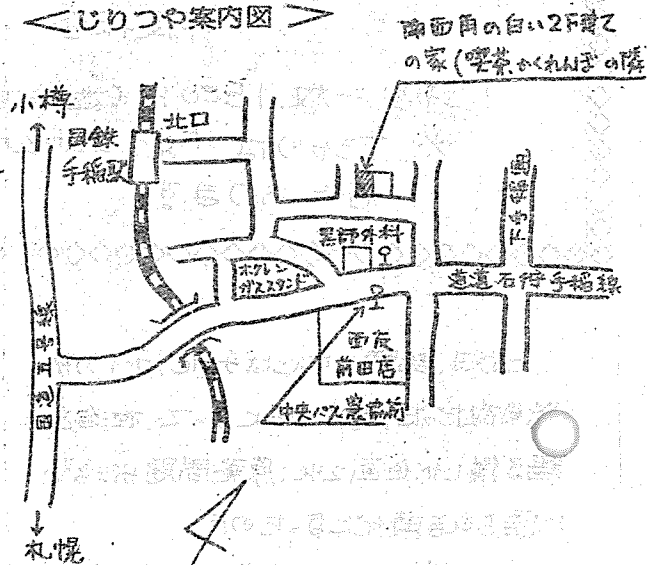
- ・チラシ、ページ印刷等全般
- ・写真、移転等のほか印刷
- ・タイプ、ワープロでの原稿作成

〒006

札幌市西区前田2条11丁目10

TEL 682-9159

＜じりつや案内図＞



思ってもよからず通信担当。とはいってもレポートはすでに出来て
 いた。私は単純に文字を書いただけ。のはずなのに、始めると??の
 嵐でした。とにかく、あちこち電話をかけた。出かけた。教えて
 もらう。母んとか完成することばで済ませました。新しいもの好きで
 私には、大変目がる楽しい時でした。(伊藤 初江 記)